

平成21年度 高知大学認定団体

# S.O.S

## 活動 報告集

Student's Organization Self-help and Official Support



高知大学

就活会による就活カフェの様子

# S.O.S認定活動って

# いったい、なんなが？

# c o n t e n t s

高知大学 S・O・S認定活動を知っていますか？ ..... 2

就職活動を学生の目線で支援する！ ..... 3

プロジェクト名：就職活動支援プロジェクト 団体名：就活会

学内情報誌を作成、身近な話題を発信！ ..... 4

プロジェクト名：ちょっとオイシイ高知大ライフJam 団体名：チーム☆ぼうしぱん

学生活動の情報発信、高知大の団体を“つないでいきます”！ ..... 5

プロジェクト名：学生活動支援 団体名：さぽると

メンタルヘルスを中心とした学生相談で、仲間をサポート ..... 6

プロジェクト名：ピア・サポート 学生相談 団体名：メンタルヘルスケアクラブ (MHCC)

地域の老人クラブと交流、息の長い活動をしています！ ..... 7

プロジェクト名：高知長寿いきいきプロジェクト 団体名：百遊会

フェアトレードを中心とした国際交流！ ..... 8

プロジェクト名：高知大学国際協力団体 団体名：すきっぴ

# 高知大学 S・O・S認定活動を知っていますか？

高知大学総合教育センター 修学・留学生支援部門  
S・O・S支援部会長 玉里恵美子

高知大学S・O・S認定活動をご存知ですか。S・O・Sとは、Students' Organization Self-help and Official Supportのことで、本学の学生相互支援（ピア・サポート）活動組織を指しています。また、そのような活動を大学として公的に支援していこうとするものです。

平成12年より学生相互の活動を支援する組織が大学内に設立され、後にS・O・S支援部会という教員組織ができ、S・O・S活動の充実が図られてきました。今年度からは、S・O・S支援部会を総合教育センター修学・留学生支援部門に設置することになりました。S・O・S支援部会の活動は、①学生による多種多様なピア・サポート活動の発掘（募集）と拡大、②相互支援活動組織である各プロジェクト（団体）への支援の充実、③新しいS・O・S活動及びS・O・S支援活動システムの定着と検証、を具体的な活動目的としています。

これらの目的を達成するために、年に一度公募が行われ、学生の申請に基づき、S・O・S支援部会の審査を経て、幅広くその活動を認定し支援を行うことになっています。すなわち、①すべての学生に対して門戸を開き、②その活動に公共性があり、③学生が相互に支援する活動であるならば、本学のS・O・S活動として認定され、財政的な支援も受けられるという仕組みになっています。

また、学生の新たな企画の掘り起こしのため、募集段階で学生にわかりやすいメッセージを伝えるべく、①学生のためのピア・サポートを目的とした活動、②地域活動・地域貢献を目的とした活動、の二つの応募区分を設定しています。



[リーダー会議]

各々の活動には、プロジェクト支援教員がいて、学生活動の指導・サポートにあたります。学生の自主的な活動を尊重しながら、S・O・S支援部会、プロジェクト支援教員、事務局がそれぞれの立場からアドバイスを行い、本学学生の自律的な能力の形成に寄与することをミッションとしています。

本報告書は平成21年度に採択された6団体の活動報告書です。学生のみなさん、S・O・S認定団体に入って活動してみませんか？また、自分たちで活動団体を作ってみませんか？毎年、春に公募をします。学内掲示板やグループウェアのフォーラムを良く見ておいてください。S・O・S活動に関する相談は一年中受け付けています。S・O・S支援部会や学生支援就職室まで、問い合わせて下さい。

S・O・S支援部会		
玉里恵美子	部会長	総合教育センター 准教授
辻田 宏	委員	人文学部 教授
池田 啓実	委員	人文学部 教授
小島 郷子	委員	教育学部 教授

# 就職活動を学生の目線で支援する！

プロジェクト名：就職活動支援プロジェクト 団体名：就活会

## ①活動目的

就活生に対して同じ学生という立場から身近で親身なサポートを行い、就活生の不安や疑問を解消することが目的です。メンバーは、それらのサポートを通じて、これから社会人となるメンバーの成長を目指しております。

## ②活動の概要（人数、活動日など）

就活会のメンバーは就職活動を終えた朝倉、農学部各キャンパスの4年生、大学院2年生を中心とした計20名です。就活会は代々続いており、今年で6代目になります。

## ③今年度（1年間）の活動内容

- 7月 就活会メンバーによる相談会
- 11月 就活会メンバーによる相談会
- 12月 就活会メンバーによる相談会  
外部講師を招いてのセミナー
- 1月 就活会メンバーによる相談会
- 2月 就活会メンバーによる相談会

☆その他就職室開催の各種イベントのサポート

## ④これからの活動について（目標や抱負）

私達は卒業してしまい来年の活動には参加できません。しかし、私達の活動に影響を受け、内定をもらった就活生が就活会メンバーとして後輩の支援に携わってくれたら嬉しいです。就活会の様に学生が自主的に後輩の就職活動のサポートを行うことは全国的に見ても珍しいです。是非、積極的な活動の継続を願っております。



〔就活会メンバーによる相談会〕

## ⑤S・O・S認定活動として「何を学んだか」

### 1) 外部とのつながりを通して

すべての活動において就職室や講師の方々等、多くの方々に大変お世話になりました。普段の学生生活ではここまで社会人と関わる機会は少ないと思います。それらの方々に気持ち良く協力していただくためには信頼関係が大切です。報告・連絡・相談には細心の注意を払い、感謝の気持ちをきちんと伝える大切さを学べたことは、これからも役に立ちます。就活会の活動に対して、外部講師として来られた先生が就活会と一緒に仕事することで、「心が震え感動したとよ」という言葉を頂けたことは、自信にもつながりました。



〔講師を招いてのセミナー〕

### 2) 就活生とのつながり

就職活動を行う後輩達はとても真剣です。人生の岐路に立っており、その様な後輩に対してアドバイスをするという事はこちらも中途半端なことは言えないという意識になりました。就職活動を終えてもなお、将来や働くことについて真剣に考える機会となりました。

### 3) メンバーとのつながり

就活会メンバーは4年生もしくは院の2年生です。就職が決まった学生は残りの学生生活を自由に使えます。その様な中、後輩のためと思い多くの時間をかけて行動するメンバーは皆、素晴らしく、メンバー同士が互いに刺激し合うことにより、より良い経験となりました。

## 学内情報誌を作成、身近な話題を発信！

プロジェクト名：ちょっとオイシイ高知大ライフJam 団体名：チーム☆ぼうしばん

チーム☆ぼうしばんは、「高知大に来てよかった！」と思う学生を増やすことを目的として、高知大生に向けたフリーペーパー『Jam』を発行している団体です。冊子を通して、高知や高知大学を見直すきっかけ、何らかの行動を起こすための情報、学生生活を充実させるのに役立つ情報を提供するために活動しています。2006年度に発足したこの団体は、現在、ライター5名、デザイナー3名、カメラマン1名の計9名から成り立っており、6日ごとに集まって会議を行っています。活動にはs・o・s教室、もしくは人文学部棟の空き教室を使用しています。

この団体が発行している冊子には、春と秋に発行している『Jam』と、夏と冬に発行している『mini Jam』があります。『Jam』はB5サイズで28ページの冊子、『mini Jam』は1枚の紙を折りたたんだもので、広げるとA3サイズになります。どちらもオールカラーで、1度におよそ3,000部発行しています。通常、冊子は1年に4回発行していますが、今年度は人員不足により『mini Jam』冬号の発行を断念しました。

出来上がった冊子は朝倉キャンパスで手配りをしたり、大学構内に設置をしたりしています。これまでは朝倉キャンパスのみに設置していましたが、今年度からは物部キャンパスにも設置をするようになりました。来年度からは岡豊キャンパスへも設置しようと計画しています。企画の内容も朝倉キャン

パスの情報のみに留めず、より広い範囲の情報をより多くの人へ届けたいと考えています。そして、今後また休刊という事態に陥らないためにも多くの新メンバーの獲得を目指し、スムーズに運営できる環境を作ろうと思っています。高知と高知大の魅力を伝え続けるため、この活動を継続していくことが今の目標です。

この活動の中で、私たちメンバーはたくさんのこ



[Jam2009秋号]

とを学びました。一つは、他学部の学生や社会人の方々と関わる上で、自分とは違うタイプの人たちの良いところを吸収しようと思えるようになったことです。他にも、普通に生活している時とチーム☆ぼうしばんとして活動する時とで自分の中のオンオフを切り替えられるようになる、個人として

だけでなく組織としての課題を自ら意識するようになる、自分の得意分野と苦手分野を把握した上で苦手分野に挑戦する姿勢を持てるようになるなど、多くの成長を遂げることができました。これからも活動していく中で多くのことを吸収し、発信していくべく、邁進しようと考えています。

### 2009年度の活動内容

- 4月：Jam春号発行
- 7月：mini Jam夏号発行
- 10月：Jam秋号発行
- 1月：mini Jam冬号休刊



[Jam]

# 学生活動の情報発信、高知大の団体を“つないでいきます”!

プロジェクト名：学生活動支援 団体名：さぼると

## ○活動目的

さぼるとは学生活動を支援する団体である。「さぼると」の由来は、支援する“サポート”とラテン語で港を表わす“ポルトゥス”を合わせたものである。現在の高知大学の学生団体は、各々に活動を行っており、団体同士の交流や協力はあまり成されていない。また、個人や団体がイベント情報などを告知する場合、現状では個人がメールを作ってそれを転送で広げるというような方法であり、広がりには限界がある。そこでさぼるとは、情報（イベント・セミナー・ツアーなど）を集積して一元化をすることで、それが広く行き渡るようにする。また団体の情報を集積して共有できるシステムを作り、学生と団体、団体と団体などを橋渡しする。イメージとして、「さぼるとが情報の港となり、またその港に人が集まってくることで、学生活動への入り口となる」ことを目指している。これらによって学生活動の活発化・効率化を図る。

## ○活動概要

団体構成は、3年生 4人（人文2、理2）2年生 1人（理）1年生 2人（人文2）の計7名である。活動日などは特に定めていないが、不定期に週平均2回程度でミーティングを行って来た。

## ○本年度の活動内容

メーリングリスト（以下ML）を作成して、多くの学生に登録してもらった（現時点で40名ほど）。友人や新聞の広告等からイベント情報を収集し、現在まで20件以上の情報提供をMLにて行った。いくつかのイベントでは、登録者が参加していたことを確認できた。



[ワークショップの司会]

また、さぼるとに興味を持ってもらった人達に集まってもらい交流会を実施した。結果としてMLの登録者数を飛躍的に増やすことができた。

他にも、s・o・s報告会の進行を担当。各団体の活動に役立ててもらうための物品の購入。また団体としての目的や手段を練る作業を一年間行ってきた。

## ○これからの活動について

高知大学に存在する学生団体などを把握して情報を集積していく。今回の報告会向けに団体紹介フォームを作った。今後これを活用して、色々な団体に情報を記入してもらい集積する。それを何かをやりたいと思っている学生に情報提供を出来るようにする。



[最終報告会を終えて]

MLの登録者数を増やすと共に、提供する情報の量と質を向上させることを目指す。またHP作成やmixiの活用など、ML以外の手段でも情報発信を行っていく。

それらを円滑に実行するために、さぼると自身の周知も積極的に行う。また、さぼるとの目的に沿う内容のツアーや勉強会を企画して実施する予定である。

## ○S・O・S認定活動として学んだこと

土台のできていない団体を運営することの難しさを学んだ。団体としての目的や目標を自分たちで設定し、それを共有しなければならなかったのだが、文系・理系の考え方の相違やそれぞれの思いの違いなどもあって、何度も議論が紛糾した。相手の立場を考慮したうえで議論や認識を共有することの重要性や、適性に合わせた作業分担をする事が必要であると実感した。

# メンタルヘルスを中心とした学生相談で、仲間をサポート！

プロジェクト名：ピア・サポート 学生相談 団体名：メンタルヘルス ケア クラブ (MHCC)

## ○活動の目的

メンタルヘルスについて学び、様々な形で実践を行うサークルです。精神科・保健管理センターのご協力の下に、カウンセリングや精神医学などの幅広い分野の知識を得て、将来良い医療者となる事を目的としています。

## ○活動内容

毎週金曜日、午後6時～8時に医学部にて活動を行っています。活動内容はカウンセリング講義、カウンセリング演習、精神医学講義など、大学の先生方をお願いして行うものや、心理テスト、医療面接（がん告知）、緩和ケアなど、学生が主体となって行う内容まで様々です。精神に関連する映画鑑賞や、興味のある分野について調べ、発表するグループワークも不定期で行っています。

ピア・サポート活動については、毎週金曜日午後4時半～6時の時間に、大学保健管理センターの一室をお借りして相談窓口を開いています。学

生が持つ様々な悩み相談から気軽な質問まで、多様なニーズに答える事のできる敷居の低い窓口を目指しています。サポーターは年一回、室戸少年自然の家で行われるピア・サポート合宿に参加して講義を受け、数時間の研修を受けた上で大学精神科よりサポーター認定を受ける仕組みになっています。

S・O・Sのご支援の下、このたびサポーターが着用するポロシャツを作成させていただきました。サポーターの増員と、学内への宣伝活動に活用させていただこうと思っています。

## ○その他

MHCCの活動分野の一つとして、ピア・サポート活動があります。臨床心理士の先生から学んだカウンセリング技術を学生同士の助け合いに実践するというもので、現在週一回ピアサポートルームにて学生相談を行っています。



[合宿で記念撮影]



[研修の様子]

# 地域の老人クラブと交流、息の長い活動をしています！

プロジェクト名：高知長寿いきいきプロジェクト 団体名：百遊会

## ○百遊会とは

高知県香美市（旧香北町）にて、旧高知医科大学老年病科が健康支援事業として行っていた文化教室の廃止後、その参加者の中から希望者が集まって新規に結成されたグループです。香北町が合併することによって、市が運営できなくなり、4年前より高知大学医学部の学生が運営しています。前団体を合わせると、18年もの歴史があります。現在、高齢者は15人、学生8人、教員1人、香美市の看護師さん2人（学生が運営する前に運営されていた方）で組織しています。

活動内容は、参加者同士が相談して決めており、学生はグループ内の交流や活動を円滑にするために支援的に関わるのみであくまで意思決定は高齢者に



〔高齢者と紅葉ツアー〕

ゆだねられています。（非高齢者である教員が活動内容決定の主導権を握るデイサービスとは異なる意思決定形態です。）活動は月に1回で、例えば、牧野植物園や歴史民俗資料館などに出かけています。

## ○活動をしていく中で成長をしていると考えられる点

まず一年生は周りのことによく気がつくようになり、自然と動けるようになったと思いました。はじめは、やはり緊張もしますし、何をやっていいかわからない点が多かったと思いますが、場数を踏むことにより、多方面にわたり気がつくようになり、自然に高齢者のサポートができて、会がスムーズに動くようになったと感じます。また、気軽に高齢者と会話もできて（はじめは、高齢者の言っていることを聞き取ることで、どんな話題にするか、話し方にも困ります）会の雰囲気も良くなりました。

他学年に関しては、コミュニケーション能力の向上はもちろんのこと、会の司会をいろんな人にやらせてもらうことにより、グループ運営のノウハウを少

しずつ身につけているのではないかと考えられます。

高齢者に関しては、6年生が卒業して、私たち3年生が中心に運営していくうえで、高齢者たちが「自分たちが会を運営していくのだ」という意識が芽生え、積極的に会に参加した学生に何か伝えていこうという意識も出てきていると感じます。

## ○これからの課題

この百遊会を維持していくことです。今、医学部のカリキュラムがどんどん変わり、進級がとても厳しい状況になっています。その中でも、時間を見つけながら運営していきますが、新入生を入れないと何十年とこの会を続けていくのは不可能です。なので、4月からは新入生の獲得に力を入れたいと考えています。

## ○最後に

介護の問題にもっと真剣に取り込まないといけないと考えています。というのも、介護というのはとても大変だと思いますし、一人では絶対にできないと思います。実際のところ、この会を運営している時に、しんどくて投げ出したくなった時もあります。これから、高齢者率が増えていくことは必至です。そのうえで、介護する側も介護される側もいきいきと生きていくことができる方法を考えないといけないと思います。

この百遊会で本当にいろんなことが身に付いていると思います。コミュニケーション能力などはもちろんのこと、80～90歳を過ぎている高齢者が元気になる姿や、また「来月も来てな」「いつまでも、この活動を続けてな」など言われることにより、頑張ろうという気持ちが出てきます。また、私たちの何倍もの人生経験を持っている方々の話を聞くことにより、いろいろなことを知ることができます。



〔集合写真〕

# フェアトレードを中心とした国際交流！

プロジェクト名：高知大学国際協力団体 団体名：すきっぷ

すきっぷ（以下、当団体）はフェアトレード活動による途上国の貧困解決を目指している。今年度はフェアトレードを軸としてさまざまな活動をしてきた。フェアトレードとは、利益の追求ではなく、発展途上国の商品を適正な価格で継続的に購入することを通じ、対等な立場で取引することにより、立場の弱い途上国の労働者の生活改善を目的とする運動である。現在、日本においてフェアトレードの認知度は低く、活動もあまり活発ではないのが現状である。そこで私たちが高知でフェアトレード商品を販売し、学生や一般の方に向けた講演会やレクチャーを実施することで、日本のフェアトレード認知度を上げ、結果的に途上国の人々の生活を向上させることが目的である。



[イベントでの販売]

現在、当団体には24名が所属している。顧問として人文学部の中西三紀准教授、アドバイザーとして独立行政法人国際協力機構（JICA）四国支部・国際協力推進員の松尾泰輔氏のご協力を得て活動している。当団体は現在、フィリピンのスモークマウンテン（首都マニラのごみ投棄場）で暮らす人々が作ったエコバッグと、マラウイ共和国のエイズ孤児たちが作ったビーズバッチをフェアトレード商品として扱っている。今年度は地域での販売やイベントの主催、セミナーへの参加、高校への出張授業などに取り組み、フェアトレードの販売・普及を中心に取り組んできた。

今年度の活動を通しての課題は、生産者の情報が不十分であった点である。フェアトレード商品は、一般企業による製品と比べて質が劣り、生産者への適切な賃金を支払うために価格が高くなってしま

のが一般的である。消費者に対して明確な情報・説明がなければ、質が悪く値段も高いフェアトレード商品に対して消費者に疑問を持たれてしまうのではないかと。しかし今年度は販売の際、当団体が行っているフェアトレードによって途上国の状況がどのように改善されたのか、労働者の生活向上に関する情報を詳細に消費者に伝えることができなかった。そのため、来年度は生産者の生活や賃金、売上による生活改善状況などの情報を現地NGOなどとの連絡や、現地視察によって解明したい。

最後に、今年一年間高知大学s・o・s認定団体として活動してきて、高知大学生を巻き込んで活動していくことの大切さを学んだ。今年度、当団体は高知大学内ではなく、高知大学外で活動する回数が増えていた。県外生が半数を占めているという特性をもつ高知大学で普及活動をするということは、高知だけでなく日本全国に対してフェアトレードの認知度を上げることにもつながるのではないだろうか。しかし、学外で重点的に活動した結果、学内での活動が不十分になっていた。また、高知大学で活動しているにもかかわらず、他の高知大学生に当団体の活動について十分に周知できていなかった。そのため、当団体に対する正しい理解がされず、高知大学の他学生団体の協力を得ることが難しかった。1つの団体だけでは達成しにくいことも、協力し合って活動すれば成し遂げることが可能になるだろう。よって次年度からは高知大学生向けの活動を積極的に行い、高知大学の他学生団体との交流によりネットワークを形成できたらと思う。



[明德高校で出張授業]

# メンバー 募集中！！

## 新しく団体を作って 活動してみませんか？

高知大学では、学生同士の相互扶助（ピア・サポート）を中心に、学内の活性化、地域貢献に積極的に取り組む学生団体を公的に支援しています。

皆さんも、仲間に入りませんか？

**S・O・S認定活動についての問い合わせ 各団体への問合せはこちら・・・**

高知大学学生支援課就職室 〒780-8520 高知市曙町2丁目5番1号  
電話:088-844-8432 E-mail : gs06@kouchi-u.ac.jp